

現況分析における顕著な変化についての説明書(研究)

法人名

京都大学

学部・研究科等名

情報学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : I 「研究活動の状況」

2. 上記1における顕著な変化のあった取組及び成果の状況、その理由

○顕著な変化のあった観点名 : 研究活動の実施状況

○研究資金の獲得状況

経年で安定した傾向を見ることができる科学研究費補助金(特別研究員奨励費を除く)の件数に注目すると、平成13-15年度(法人化前)、平成16-19年度(第1期・暫定評価期間)、平成20-21年度(第1期・暫定評価以降)の期間において、継続課題を含めた1年度あたりの件数はそれぞれ93件/年度、101.75件/年度、108件/年度であり、暫定評価時以降も件数の増加傾向を維持していることがわかる。また、新規課題の採択率も平成16-19年度(第1期・暫定評価期間)に43.5%であったものが、平成20-21年度(第1期・暫定評価以降)には44.1%と若干の改善を示している。

○グローバルCOEプログラム

さらに特筆すべき取り組みとして、平成19年度に設置されたグローバルCOEプログラム「知識循環社会のための情報学拠点形成」がある。本プログラムにおいて、多言語拠点「言語グリッド」の国際連携プロジェクトの推進(Googleなどを含む17カ国120グループ)、バイオロギングとその絶滅危惧種の生態調査への応用に関する国際的な連携研究の推進(タイ国各機関との連携やシンポジウムによる情報発信)、領域横断型のWeb情報の信頼性の連携研究の展開、特異値分解法の高速度化と関連語/同位語発見への応用などの活動がすでに成果を挙げているだけでなく、学生や若手研究者の論文数、博士後期課程学生の査読つき論文数(平成18-19年度:137.5篇、平成20年度:176篇)、受賞・表彰数(平成19年度:7件、平成20年度:10件)、学振特別研究員奨励費の採択件数(平成16-19年度:24.75件/年度、平成20-21年度:30.5件/年度)などに改善が見られ、研究科の研究活動の活性化に大きく寄与している。

○著名な学会賞の受賞など

- 1) IEEE Control Systems Society Distinguished Member Award (平成21年12月17日受賞) 山本裕教授(複雑系科学専攻)「for the contributions to systems and control theory, including sampled-data control and its applications to digital signal processing」
- 2) 第1回マイクロソフトリサーチ日本 情報学研究賞(平成21年11月6日受賞) 五十嵐淳准教授(知能情報学専攻)
- 3) 2009 IBM Faculty Award (平成21年7月受賞) 黒橋禎夫教授(知能情報学専攻)
- 4) 国際コミュニケーション基金 優秀研究賞(平成21年4月24日受賞) 林和則准教授(システム科学専攻)「超高速シングルキャリアブロック伝送」
- 5) 平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)(平成21年4月14日受賞) 松山隆司教授(知能情報学専攻)「分散協調型画像理解の研究」
- 6) 平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学賞(平成21年4月14日受賞) 五十嵐淳准教授(知能情報学専攻)「オブジェクト指向言語の基礎理論と設計の研究」
- 7) 通信協会 第54回前島賞(平成20年10月31日受賞) 守倉正博教授(通信情報システム専攻)「OFDM 無線LANシステムの実用化」